

2005年12月

わが国初の屋外巡回監視ロボット 「セコムロボットX」

セコムでは、わが国初の屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」を10月8日から販売開始しました。最新のセンシング技術、監視カメラ、発煙装置などの威嚇機能を搭載。屋外の広い敷地などで、常駐警備や固定監視カメラと組み合わせることで、グレードの高いセキュリティを提供します。



●屋外巡回監視ロボット
「セコムロボットX」



We are SECOM.

セコムグループの目標

「社会システム産業」の構築





株 主 の み な さ ま へ

株主のみなさまには、日ごろよりセコムグループの活動にご支援をたまわりまして、誠にありがとうございます。

2005年度の弊社中間事業報告書をお届け申し上げます。

2005年度中間期の連結売上高は2,612億円(前年同期比3.2%増収)、営業利益は410億円(前年同期比12.2%増益)、経常利益は417億円(前年同期比16.1%増益)、中間純利益は233億円(前年同期比16.1%増益)となりました。

同じく単体の売上高は1,534億円(前年同期比4.5%増収)、営業利益362億円(前年同期比9.1%増益)、経常利益378億円(前年同期比9.6%増益)、中間純利益238億円(前年同期比13.2%増益)となり、中間期においては過去最高となる成果を収めました。

今後も、“あらゆる不安のない社会”の実現に向け、企業目標である「社会システム産業」の本格展開をより加速させてまいります。株主のみなさまには一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2005年12月

セコム株式会社 代表取締役社長

原口 兼正

■2005年度中間期の業績(連結)

売 上 高	2,612億円(3.2%増収)
営 業 利 益	410億円(12.2%増益)
経 常 利 益	417億円(16.1%増益)
中 間 純 利 益	233億円(16.1%増益)
1株当たり中間純利益	103円83銭(14円40銭増加)

■2005年度中間期の業績(単体)

売 上 高	1,534億円(4.5%増収)
営 業 利 益	362億円(9.1%増益)
経 常 利 益	378億円(9.6%増益)
中 間 純 利 益	238億円(13.2%増益)
1株当たり中間純利益	105円97銭(12円36銭増加)

上質なサービスの追求こそ セコム発展のカギ



セコム株式会社 代表取締役社長
原口 兼正

セコム社長・原口兼正より、株主のみなさまに「2005年度中間期の連結・単体業績」、「上半期に展開した諸施策」「セキュリティ事業の現況」、「セコム発展の決め手」についてご説明させていただきます。

Q セコムグループの2005年度中間期の経営成績および通期の見通しについて概括をお願いします。

売上高・営業利益・
経常利益・中間純利益の
いずれも過去最高に

このところ、世の中の安全・安心に対するニーズが高まっています。そうした状況のなか、セコムグループは当中間期も、新しいサービス・商品の提供や販路の拡大に力を入れるとともに、セキュリティサービス、メディカルサービス、保険、地理情報サービス、情報通信・その他の事業の拡充に努めました。

その結果、2005年度中間期の連結売上高は2,612億円、前年同期比3.2%の増収、営業利益は410億円、前年同期比12.2%の増益、経常利益は417億円、前年同期比16.1%の増益、中間純利益は233億円、前年同期比16.1%の増益となり、いずれも過去最高を更新しました。

事業別に見ると、セキュリティサービス事業の売上高は1,903億円、前年同期比3.4%の増収、営業利益は497億円、前年同期

比6.2%の増益。メディカルサービス事業の売上高は147億円、前年同期比19.6%の増収、営業利益は7億円、前年同期比73.5%の増益。保険事業の売上高は139億円、前年同期比3.1%の減収、営業損益は16億円の営業損失となりました。保険事業の減収は、正味収入保険料が増収になったものの、新たに導入された「自然災害責任準備金」の繰り入れ増、資産運用をよりリスクの少ない運用にシフトしたことによる資産運用収益減などによります。

地理情報サービス事業の売上高は132億円、前年同期比6.1%の増収、営業損益は21億円の営業損失となりました。これは主要顧客である官公庁向けの売り上げが期末に集中するため、上半期には固定費が吸収できなかったことによります。情報通信・その他の事業の売上高は289億円、前年同期比3.1%の減収、営業利益は12億円、前年同期比468.1%の増益となりました。売上高については、特約店販売における売上高計上基準を変更したことなどから、前年同期比で減収となっています。

セコム単体の業績は、売上高が1,534億円、前年同期比4.5%の増収、営業利益が362億円、前年同期比9.1%の増益、経常利益が378億円、前年同期比9.6%の増益、中間純利益が238億円、前年同期比13.2%の増益と、いずれも中間期の過去最高となりました。なお、通期の連結業績は、セキュリティサービス事業が引き続き順調に推移することが予想されることから、売上高は5,720億円、前期比4.5%の増収、営業利益は942億円、前期比13.4%の増益、経常利益は950億円、前期比13.8%の増益、当期純利益は519億円、前期比7.0%の増益を見込んでいます。

Q 上半期に展開した施策のなかで特に重要と思われるものを紹介してください。

新事業分野への進出など 多彩な施策を展開

<制服を刷新>

山本寛斎氏にデザイン、ユニクロでおなじみの㈱ファーストリテイリングに製作を依頼しました。セコムの制服はお客様に信頼感を、賊に威圧感を与えると同時に、制服を着ると身が引き締まるものでなければなりません。というのは、私たちは独特の職業倫理を持ち、お客様の安全を守る仕事をしているので、制服を着たときにその自覚と使命感を思い起こす必要があるからです。安全・安心の象徴である制服の刷新を機に、決意を新たにしてセコムを発展させていきたいと思えます。



●9月20日の「セコム新制服記者発表会」
(写真左からセコム創業者・飯田亮、ファーストリテイリング・柳井正会長、セコム社長・原口兼正、山本寛斎氏)

＜学校・児童の安全強化＞

近年、学校での不法侵入者による凶悪な犯罪が大きな社会問題になっていることから、「セコム・スクールセキュリティ」を発売しました。これは校門や通用門にカメラ付きインターホンや監視カメラを設置して侵入を防ぐ、登下校の生徒を守るためにICタグ付き「ココセコム」を持たせる、学校内を常駐警備員や「セコムロボットX」が巡回監視し、異常を発見した場合は即座に対応を行うなど、トータルなセキュリティシステムですが、学校のニーズに合わせて必要なシステムを選択し組み合わせて使っていただくこともできます。生徒や教職員の方に安心して学校生活を送っていただくために普及に力を入れています。

＜「不正持出し監視システム」を新発売＞

万引き防止システムでトップシェアの高千穂交易(株)と提携し販売を開始しました。これは商品にタグを付け、レジでタグの機能を消去せずにゲートを通ろうとすると、ゲートやタグが鳴動するシステムです。

＜ネットワーク基盤の強化＞

セキュリティシステムに使用する通信回線は、現在、ISDN、光ファイバー、IP電話などご契約先によって異なるため、マルチ回線アダプターの活用により、どんな回線にも対応できるようにしました。

このほか、わが国初のPFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」



●山口県美祢市のPFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」完成予想図

の整備・運営事業の競争入札にセコムを代表企業とするグループが参加し、落札しました。また、ビルメンテナンス会社の東京美装興業(株)に資本参入。中国・広東省深圳市に中国で5番目となるセキュリティ会社「深圳西科姆電子安全系統有限公司」を設立しました。また、新潟県中越地震と阪神・淡路大震災で被災したセコム社員50名にアンケートを実施し、それを元に厳選した防災用品をセットにした「セコム・スーパーレスキュー」を発売、大きな反響を呼びました。

Q 事業所向けセキュリティと家庭向けセキュリティの現況をどう捉えていますか。また、ホームセキュリティの市場開拓についてどのような構想を持っていますか。

新CMと営業活動の相乗効果で セコムをもっと理解していただく

8月から、企業向けの新CM「あそこもセコム編」を放送しています。これは、「セコムはホームセキュリティの会社」という印象が強い傾向にあり、これを払拭したいと考えたからです。実際の売り上げは法人向けの方がはるかに大きいのですが、ご契約先も、「ホームセキュリティのセコム」と思われているようです。そこで、“実はセコムは法人のご契約先が多くある”ということをアピールする目的で、実際のご契約先である有名な施設や店舗などを印象に残る映像で紹介しています。あわせて、これを営業活動にも活用するようにしています。

また7月から放送している家庭向けの新CM「部分セット編」は、外出中はもちろん、在宅中でも必要な部屋やエリアをしっかりと見守るという、セコムならではの「24時間オンライン」を訴求していこうという考えから制作したものです。こうしたCMを放送すると同時に、営業員がお客様にご説明することで、「セコム・ホームセキュリティ」の強みをより深くご理解いただきたいと考え

ています。

また、「セコム・ホームセキュリティ」のご契約先へのサービス強化の一環として、今年の9月から、セコム独自の生活支援サービス「セコム・ホームサービス」を開始しました。

東京・神奈川の、ご契約先が密集している地域からサービスをスタートしましたが、11月からは、神奈川県湘南地域と大阪・兵庫のご契約先密集地域にもサービスを拡大。ご契約先にとって、「セコム・ホームセキュリティ」のご利用メリットをさらに向上させ、拡販につなげていきたいと考えています。



●「セコム・ホームセキュリティ」

Q これからのセコム発展の決め手になるのは何だと考えていますか。

サービスの質を高め 顧客満足度をアップ

セコムは、これまでオンラインセキュリティシステムの契約件数を増やして発展してきました。このオンラインセキュリティシステムを提供するために必要な、ご契約先からの異常信号を一元集中管理するためのコントロールセンター、異常が発生したときに安全のプロがご契約先に急行するための緊急発進拠点、安全のプロを育成するための研修センター、信頼性の高いシステム機器の研究開発のためのIS研究所や開発センターなど、セキュリティサービスを行うために必要なインフラは整っています。

それでは、今後、セキュリティビジネスの競争力を高めて、さらに発展していくために何が必要か。私が最も重視しているのは、

「セキュリティサービスの質をさらに向上させる」という一点に尽きます。

さらに質の高いサービスを提供するための一つの方法として、事業所の再配置を行うことも視野に入れていきます。そうすることで、もっとスピーディーに、もっときめ細かにサービスを提供する。そのことがセキュリティサービスの質を高め、お客様の満足度を高めていく。その質なり、満足度が圧倒的に高ければ、今後セコムは間違いなく発展すると確信しています。こうした施策の積み重ねが、今後セコムを新たな成長軌道に乗せるために重要なことであると考えています。

人材の登用を増やし 組織を活性化



●新制服を着た
セコムのビートエンジニア

もう一つ、セコムのこれからの成長にとって、大事だと考えているのが、社員にさらに高い意識を持って仕事をさせていくために、高い目標を持たせるということです。長期的な視野に立って、高い目標に向かって仕事をする。このことは組織の成長にとって大変重要なことです。

私がイメージしているのは、社員の目標レベルを今の倍以上にしたいということ。そのために、やる気があって頑張っている社員は、より積極的に登用し、高い目標をめざせるような組織作りを行いたいと考えています。こうした組織の活性化も今後のセコムの成長にとって重要なことと認識しています。

連結決算報告

●中間連結貸借対照表(要旨)

(2005年9月30日現在)

単位:億円

資 産 の 部		
流 動 資 産		5,217
現金及び預金		2,300
コーポレート		250
受取手形及び売掛金		331
未収契約料		175
有価証券		895
たな卸資産		590
短期貸付金		450
その他		224
固 定 資 産		5,740
有 形 固 定 資 産		2,305
建物及び構築物		749
警報機器及び設備		649
土地		664
その他		241
無 形 固 定 資 産		275
投資その他の資産		3,160
投資有価証券		2,272
長期貸付金		363
前払年金費用		46
繰延税金資産		161
その他		315
繰 延 資 産		0
資 産 合 計		10,958

負 債 の 部		
流 動 負 債		2,672
支払手形及び買掛金		138
短期借入金		1,002
一年以内償還予定社債		309
未払金		168
未払法人税等		175
前受契約料		317
その他		560
固 定 負 債		3,366
社 債		117
長期借入金		106
預り保証金		291
退職給付引当金		122
保険契約準備金		2,705
その他		23
負 債 合 計		6,039
少 数 株 主 持 分		330
資 本 の 部		
資 本 金		663
資 本 剰 余 金		830
利 益 剰 余 金		3,579
その他有価証券評価差額金		98
為 替 換 算 調 整 勘 定		△ 137
自 己 株 式		△ 446
資 本 合 計		4,588
負債、少数株主持分及び資本合計		10,958

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

主な連結子法人等の紹介

●セコム上信越(株)

1967年5月に設立。新潟市に本社を置き、新潟、長野、群馬の3県をエリアとする上信越地方最大のセキュリティ会社。2002年2月に東証二部上場。セキュリティ事業のほか、在宅介護サービスの提供など、医療や情報分野にも積極的に取り組み、「社会システム産業」の構築をめざしています。

●セコムテクノサービス(株)

1970年5月に設立。本社は東京都中野区。1999年10月に東証二部上場。セコムの安全システム工事を中心に、電気設備などの建築設備を施工。また快適なビル環境の実現に向けて建築設備のメンテナンスを核に、設計から施工、維持管理までの一貫したトータルサービスを提供しています。

●セコム医療システム(株)

2002年3月、セコムグループのメディカル事業

を統合し設立。セコムグループのメディカルサービスを統轄しています。訪問看護や在宅介護サービスのほか、ITを駆使したわが国初の医療機関向け遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」や、電子カルテなど、独自のメディカル事業を展開しています。

●セコム損害保険(株)

1998年9月、東洋火災海上保険(株)にセコムが資本参加。現在はセコム損害保険(株)としてセコムが筆頭株主となっています。セコムグループのシナジーを

●中間連結損益計算書(要旨)

(2005年4月1日から2005年9月30日まで)

単位:億円

売 上 高	2,612
売 上 原 価	1,589
売 上 総 利 益	1,022
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	612
営 業 利 益	410
営 業 外 収 益	71
営 業 外 費 用	64
経 常 利 益	417
特 別 利 益	15
特 別 損 失	14
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	419
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	170
法 人 税 等 調 整 額	3
少 数 株 主 利 益	11
中 間 純 利 益	233

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

〈参考〉

- ・連結子法人数 125社
- ・持分法適用非連結子会社数 該当なし
- ・持分法適用関連会社数 32社
- ・1株当たり中間純利益 103円83銭
(期中平均株式数により算出しております。)

最大限に活かし、ガンを治すための自由診療保険「メディコム」や、現場急行サービスも行う「NEWセコム安心マイカー保険」など、業界他社とは異なるセコムグループならではの保険商品を販売しています。

●セコムトラストネット(株)

サイバーセキュリティ事業の戦略的展開を図るため、2000年4月に設立。ネットワーク上の情報を守るサイバーセキュリティ、電子商取引や電子申請に不可欠な高度電子認証サービスを提供。また物理面・サイバー面双方で世界最高水準の

セキュリティを誇るセキュアデータセンターでは、3大金融グループの電子認証局構築・運用を受託しています。

●(株)バスコ

1999年8月にセコムグループ入りした、地理情報サービスと航空写真測量の東証一部上場企業。欧米をはじめ世界に共同開発拠点を置き、グローバルなネットワークを構築。システム技術、測量・計測技術、建設コンサルタント技術の3つの技術を融合した新情報サービスを提供し、さらに新規

■営業の概況(連結)

当中間連結会計期間の連結売上高は2,612億円(前年同期比81億円、3.2%の増収)、連結営業利益は410億円(前年同期比44億円、12.2%の増益)、連結経常利益は417億円(前年同期比58億円、16.1%の増益)、連結中間純利益は233億円(前年同期比32億円、16.1%の増益)となりました。

当グループの各事業の種類別売上高は次の通りとなっています。

●セキュリティサービス事業

1,903億円(前年同期比 3.4%増)

●メディカルサービス事業

147億円(前年同期比 19.6%増)

●保険事業

139億円(前年同期比 3.1%減)^{※1}

●地理情報サービス事業

132億円(前年同期比 6.1%増)

●情報通信・その他の事業

289億円(前年同期比 3.1%減)^{※2}

●連結売上高合計

2,612億円(前年同期比 3.2%増)

※1. 正味収入保険料が増収となったものの、新たに導入された「自然災害責任準備金」の増加などの影響で、前年同期比で減収となっています。

※2. 特約店販売における売上高計上基準を変更したことなどから、前年同期比で減収となっています。

(注)

1. 金額は外部顧客に対する売上高で、億円未満を切り捨てて表示しております。

2. 従来「情報・通信・その他の事業」に区分していた事業を当期より「地理情報サービス事業」と「情報通信・その他の事業」に区分しておりますが、前年同期も変更後の区分に組み替えて比較しております。

市場を開拓しています。

セコム

●西科姆中国グループ

1992年12月に西科姆中国有限公司を設立。本社は北京市。1993年7月、日本企業初の持株会社としての認可を取得。現在、大連、上海、北京、青島、深圳で展開する中国グループの本社の役割を持っています。

上記5市で、各地の現地法人と合併でセキュリティ会社を設立し、オンライン安全システムを提供しています。

単体決算報告

● 中間貸借対照表(要旨)

(2005年9月30日現在)

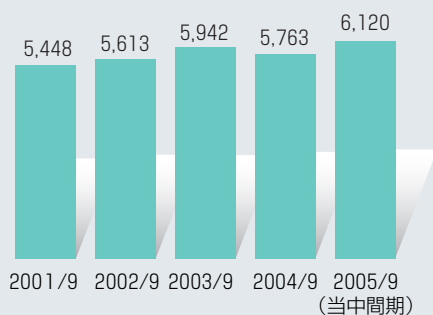
単位:億円

資 産 の 部		
流 動 資 産		2,251
現金及び預金		1,415
未収契約料		94
売掛金		51
たな卸資産		78
短期貸付金		479
その他		131
固 定 資 産		3,868
有 形 固 定 資 産		1,270
建物		235
警報機器及び設備		611
土地		348
その他		76
無 形 固 定 資 産		84
投資その他の資産		2,512
投資有価証券		566
子会社株式・出資金		1,332
長期貸付金		188
長期前払費用		213
繰延税金資産		79
その他		131
資 産 合 計		6,120

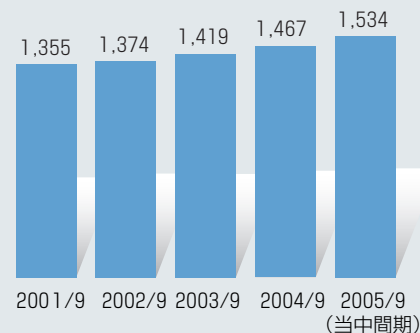
負 債 の 部		
流 動 負 債		1,480
買掛金		27
短期借入金		275
一年以内償還予定社債		300
未払金		129
未払法人税等		124
預り金		310
前受契約料		223
その他		89
固 定 負 債		239
退職給付引当金		56
預り保証金		182
負 債 合 計		1,719
資 本 の 部		
資 本 金		663
資 本 剰 余 金		830
利 益 剰 余 金		3,313
その他有価証券評価差額金		39
自 己 株 式		△ 446
資 本 合 計		4,400
負 債 及 び 資 本 合 計		6,120

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

■ 総資産(億円)



■ 売上高(億円)



● 中間損益計算書(要旨)

(2005年4月1日から2005年9月30日まで)

単位:億円

売 上 高	1,534
売 上 原 価	828
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	342
営 業 利 益	362
営 業 外 収 益	44
営 業 外 費 用	29
経 常 利 益	378
特 別 利 益	12
特 別 損 失	8
税 引 前 中 間 純 利 益	382
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	120
法 人 税 等 調 整 額	23
中 間 純 利 益	238
前 期 繰 越 利 益	2,954
中 間 未 処 分 利 益	3,192

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

〈参考〉

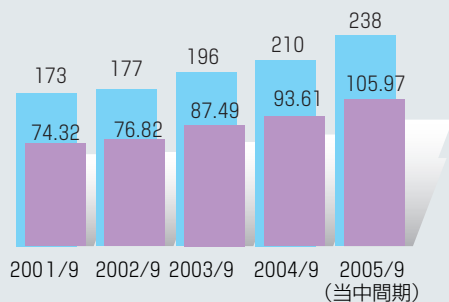
- ・ 1株当たり中間純利益 105円97銭
(期中平均株式数により算出しております。)

■ 営業の概況(単体)

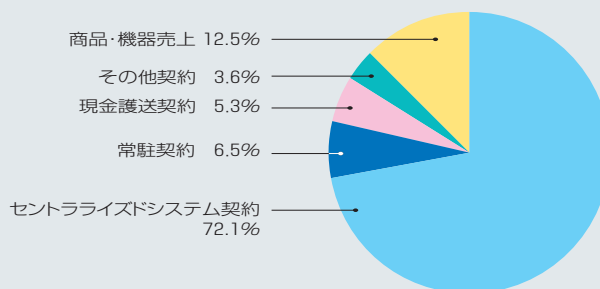
当中間期の売上高は1,534億円(前年同期比66億円、4.5%の増収)、営業利益は362億円(前年同期比30億円、9.1%の増益)、経常利益は378億円(前年同期比33億円、9.6%の増益)、中間純利益は238億円(前年同期比27億円、13.2%の増益)となりました。

■ 中間純利益(億円)および1株当たり中間純利益(円)

※1株当たり中間純利益は、期中平均株式数により算出しております。



■ 部門別売上高内訳 2005/9(当中間期)





万引き防止システムの高千穂交易(株)に資本参加 店舗セキュリティで業務提携

セコムは、7月、万引き防止システムでトップシェアの高千穂交易(株)に資本参加し、発行済み株式の約4.6%を保有する株主になるとともに、店舗セキュリティの分野で業務提携。万引き防止や情報漏えい対策の安全商品として、「不正持出し監視システム」の販売を開始しました。今回の提携により、万引き防止システムの全国展開と中小規模小売業への市場開拓を積極的に推進してまいります。



セコム独自の生活支援サービス 「セコム・ホームサービス」を開始

セコムは、9月から、「セコム・ホームセキュリティ」のご契約先に、独自の生活支援サービス「セコム・ホームサービス」の提供を開始。わが国で初めて、ホームセキュリティとホームサービスを一体化しました。9月1日から東京都・神奈川県のご契約先にサービスの提供を開始。11月からは、サービスエリアを神奈川湘南地域、関西の住宅密集地域に拡大しました。日常のちょっとした困りごとなどに迅速に対応する「セコム・ホームサービス」の「あんしんサポート」「家事サポート」「トラブルサポート」に、連日多くのお問い合わせをいただき、大きな反響を得ております。

企業の重要情報の流出を防止する 統合型入退室管理システムを発売

セコムは、1台の管理パソコンで、本社や支社を結ぶ最大8拠点、400扉、5万人におよぶ入退室管理のほかに、防犯機能も加えた統合型入退室管理システム「セサモTR II」の販売を9月から開始しました。10月には、手のひら静脈認証システム「セサモIDj」も手のひら静脈認証システム「セサモIDj」発売。個人情報の流出や凶悪事件が相次ぐなか、夜間や無人時だけでなく、就業時間中の出入管理も含めた24時間体制の防犯サービスを提供します。



わが国初の屋外巡回監視ロボット 「セコムロボットX」を発売

セコムは、10月8日、わが国初の屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」を発売しました。それに先駆けて、10月6日には記者説明会を開催し、大きな反響がありました。最新のセンシング技術や監視カメラ、発煙装置などの威嚇機能を装備した「セコムロボットX」は、工場などの広い敷地をくまなく監視。常駐警備や固定監視カメラと組み合わせることで、これまでにないセキュリティサービスを提案していきます。



山本寛斎氏デザイン、ユニクロ製作で セコムのユニフォームを14年ぶりに一新



セコムはこの秋から緊急対応員のユニフォームを14年ぶりに一新し、9月20日、新ユニフォームの記者発表会を開催しました。今回、デザインを手がけたのは世界的デザイナーの山本寛斎氏、製作は「ユニクロ」の(株)ファーストリテイリングということもあり、会場には多くの報道関係者が詰め掛けました。記者発表会では、寛斎氏プロデュースによる集団パフォーマンスやセコムの緊急対応員による基本動作などを披露しました。ユニフォームのリニューアルを機に、セコムはさらにグレードの高いセキュリティの提供にまい進してまいります。

広東省深圳市に中国5番目の セキュリティ会社を設立

セコムの中国事業を統轄する持株会社、西科姆中国有限公司は、7月、中国沿岸主要都市でのサービス体制を拡充するため、広東省深圳市に中国5番目のセキュリティ会社、深圳西科姆電子安全系統有限公司を設立しました。深圳市は、香港の北に隣接する大都市。今後セコムグループは、中国沿岸部の南北の大都市にネットワークを築き、中国でのセキュリティ事業を積極的に推進してまいります。





新概念の有料老人ホーム 「セコムフォート」シリーズを展開

「コンフォートガーデンあざみ野」

メディカル事業を統轄するセコム医療システム(株)は、新しいコンセプトの有料老人ホーム「セコムフォート」シリーズを建設・運営します。第一弾として、2006年10月に横浜市青葉区に「コンフォートガーデンあざみ野」、第二弾として、2009年6月に神戸市灘区に「コンフォートヒルズ六甲」のオープンを予定しています。「セコムフォート」は、セコムのセキュリティ、メディカル、介護サービスのノウハウを結集することで、シニア世代に“生きがい”や“充実感”を提供する、新しいコンセプトの有料老人ホームとして展開していきます。

セコムのノウハウを活かした 災害時「セコム初動支援サービス」を開始

セコム情報システム(株)は、地震の多発による社会的な防災意識の高まりを受け、地震など災害発生時に組織としての初動対応を迅速に支援する「セコム初動支援サービス」を、9月1日から開始しました。「セコムのノウハウを活かして、災害対策マニュアルの作成を支援してほしい」「防災グッズの管理が大変なので何か良い方法はないか」など、災害対策を強化したいとの企業の要望が高まるなか、昨年開始した「セコム安否確認サービス」に加え、組織としての初動対応を支援する「セコム初動支援サービス」で、わが国初の総合的な企業向け災害対応支援サービスを提供します。

家庭向け、企業向けともに セコム新CMの放映を開始

セコムの新しいCMが放映されています。ひとつは家庭向け新CM「部分セット」編。「在宅時もしっかりご家族を見守る24時間オンライン」という高い安心感と品質を訴求ポイントとして制作しました。ふたつ目は企業向け新CM「あそこもセコム」編。ホームセキュリティのイメージが先行しがちなセコムですが、ご契約先である有名な施設や店舗などを、記憶に残る映像として紹介することで、「企業や施設、店舗のセキュリティもセコム」をアピールしています。



個人情報保護法に対する セコムの取り組みについて

2005年4月1日から、個人情報を取り扱う事業者に対して、個人情報の取り扱い方法を定めた法律「個人情報の保護に関する法律」が完全施行されました。

セコムは創業以来、セキュリティ会社として当然の責務であるお客様の個人情報などの機密の保持について、社内規程を設け厳格な管理を行ってまいりましたが、本法律の施行を受け、「個人情報保護方針(プライバシーポリシー)」を策定し、個人情報保護についてのセコムの方針を宣言いたしました。

詳細は、セコムのホームページ(<http://www.secom.co.jp/>)に掲載しておりますが、本誌面で以下の通りその概要をご紹介します。

セコムの「個人情報保護方針(プライバシーポリシー)」の概要

- セコムは、サービス、商品の内容に応じて、個人情報の利用目的を具体的に明示し、利用目的以外の利用を行わない。
- セコムとセコムグループ各社は、セコムとグループ各社の製品、サービスの提供・紹介などの目的で個人情報を共同利用する。
- セコムは、法律で認められる場合を除き、個人情報を第三者に提供しない。
- セコムは、不正な手段で個人情報を取得しない。
- セコムは、契約者から契約者本人の個人情報の開示などの要求があった場合、本人確認を厳格に行った上で対応する。
- セコムは、個人情報漏えいなどの防止措置を適切に行う。
- セコムは、従業員および委託先に対して、個人情報の取り扱いに関する教育・監督を行う。
- 個人情報に関する問い合わせ窓口は、セコム(株)本社総務部とする。

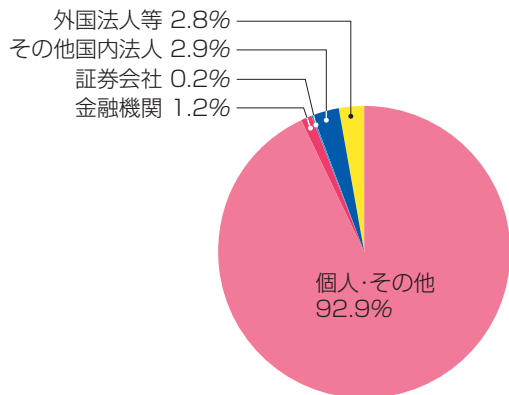
セコムの「個人情報保護方針(プライバシーポリシー)」の詳細は
<http://www.secom.co.jp/>

● 株式情報

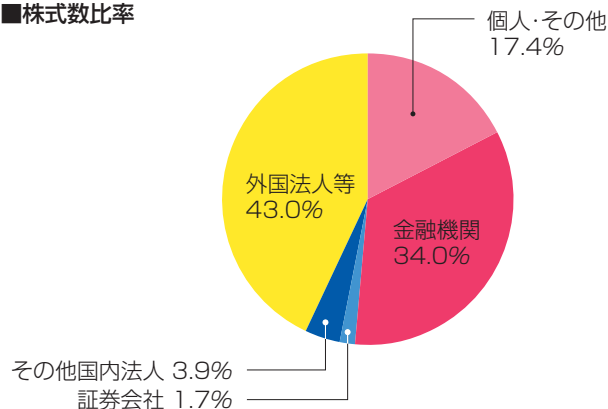
株式の状況 (2005年9月30日現在)

1. 会社が発行する株式の総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,288,717株
3. 1単元の株式数 500株
4. 株主数 18,994名
5. 所有者別状況

■ 株主数比率



■ 株式数比率



株主メモ

- 決算期 3月31日
- 定時株主総会 6月下旬
- 株主配当金支払株主確定日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 基準日 3月31日
(その他必要あるときは、あらかじめ公告した日)
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
〔日本経済新聞による決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページに掲載しております。
<http://www.secom.co.jp/bspl/>〕
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部
- 証券コード 9735
- 名義書換代理人
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同連絡先 (郵便物送付、電話照会)
〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-707-696 (フリーダイヤル)

ご案内

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っております。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

【お知らせ】当社の名義書換代理人「三菱信託銀行株式会社」は、2005年10月1日付で「UFJ信託銀行株式会社」と合併して「三菱UFJ信託銀行株式会社」となっております。

● 会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1丁目5番1号
TEL:03-5775-8100 FAX:03-5775-8902

設 立 年 月 日

1962年7月7日

資 本 金

66,377百万円

社員数(グループ総数)

38,011名

事 業 内 容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。2001年4月からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、現在、安全システムの普及を通じて培ってきた日本最大級の情報通信ネットワークをベースに、安心で、便利で、快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

ホームページのご案内

<http://www.secom.co.jp/>

● セコムの会社情報・IR情報・
商品・サービス、セコムの食などを
ご案内しております。



取締役 (2005年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田 壽一
取締役(相談役)	杉町 壽孝
取締役会長	木村 昌平
代表取締役社長	原口 兼正
専務取締役	佐々木 信行
常務取締役	桑原 勝久
常務取締役	前田 修司
常務取締役	秋山 勝夫
常務取締役	飯田 志農
取締役	小幡 文雄

監査役 (2005年11月30日現在)

監査役(常勤)	荻野 輝雄
監査役	常松 健
監査役	安田 弘
監査役	山下 耕平

執行役員 (2005年11月30日現在)

取締役会長	木村 昌平
代表取締役社長	原口 兼正
専務取締役	佐々木 信行
専務執行役員	田中 重實
常務取締役	桑原 勝久
常務執行役員	小林 清一郎
常務執行役員	小懸 昇一
常務取締役	前田 修司
常務取締役	秋山 勝夫
常務取締役	飯田 志農
常務執行役員	佐藤 興一
執行役員	森 誠一
執行役員	井東 雄志郎
取締役	小幡 文雄
執行役員	伊藤 博
執行役員	小河原 俊二
執行役員	才田 正明
執行役員	杉井 清昌
執行役員	高岡 実弘
執行役員	知野 吉
執行役員	佐々木 守
執行役員	堤 晃
執行役員	東谷 友男
執行役員	森下 秀生
執行役員	小松崎 常夫



SECOM®

その瞬間、1階は留守宅になる。

ちょっと想像してください。例えば休日の夕食時。家族みんながダイニングにそろっている、その瞬間。実は、ほかの部屋はまさに留守宅も同然の状態なのです。もしも今、この時に、不審者が侵入を図ったとしたら…。だからこそ、ホームセキュリティを選ぶなら、家族の在宅中も見守ってくれるセキュリティを。24時間オンラインでお客様宅を見守り続けるセコム・ホームセキュリティなら、万の際、即座にコントロールセンターへ異常を通報。緊急対処員がいち早く急行します。起きている時も、寝ている時も、つねに安心してお過ごしいただくために。選ぶなら、妥協しないセキュリティ。ホームセキュリティは、セコム。

見落としがちな在宅時の安心。セコムなら、安心。

セコム・ホームセキュリティ

フリーダイヤルで、インターネットで。お問い合わせ・資料請求は、24時間・365日、いつでもお気軽に。0120-025756 www.secom.co.jp

あらゆる「不安」のない社会へ。We are SECOM.